

1-4			
主題	本人の自己決定により役割意識を持ってもらう。		
副題	『自己決定!』の お・も・て・な・し		
キーワード1	アクティビティ	キーワード2	
研究期間	6ヶ月		

法人名	社会福祉法人 ウエルガーデン		
事業所名	ウエルガーデン伊興園 (通所介護)		
発表者	高尾 佳朗 本多 菜摘	アドバイザー	鹿 有佳乃(しか ゆかの)
共同研究者：正来 倫子 秋山 美穂子 塚越 歩 中道 聡子 岩下 雅美			

電話	03-5691-9501	FAX	03-5838-1325
----	--------------	-----	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	ウエルガーデン伊興園は足立区伊興に平成13年に開設した通所介護です。一般型通所介護定員50名、認知症対応型通所介護定員12名で、ほか、特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、訪問介護、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターが併設しています。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

当デイサービスにおいて、入浴・リハビリ・食事・アクティビティといった一日のスケジュールの全てが職員主導で行われてきた。しかしそれはご利用者にとっては自由のきかない窮屈なものであり、時間的制約を含め、職員の押し付けとも思える集団的で画一的なもの、その場限りのものばかりではないかという疑問が職員の間に芽生えてきた。

このことが、ご利用者にとってはストレスと感じられるようになり、何のためにデイサービスに通っているのかわからないといった不満がご利用者から上がってきた。職員は一人ひとりのご利用者に合わせたサービスを提供し、楽しい空間をつくりだそうとしているにも関わらず、デイサービスでの活動が、在宅生活を続けるためのココロとカラダのケアというものに結びついていないということが課題だと分かった。

《2. 研究の目的ならびに仮説》

在宅生活を継続する為にご利用者が主体的にデイサービスでの自身のスケジュールを組み、やりたいことが自由に行えるようにすることで、ご本人の【自己決定】と【役割意識】を高めることを目的とした。

義務的になっていた集団的活動から、【自己決定】による小グループでの活動を行うことで、多くの人と関わるというストレスを軽減し、やりたいことをやり続けることで満足のいく時間を過ごしてもらうことができるのではないかと考えた。また【自己決定】したものができるという状況ができていくことで、デイサービスにいる時間が心身ともに活性化され、自宅での生活も改善し、さらに意欲が引き出されていくことで、【役割意識】を持ちデイサービスに通う意味と楽しみを見つけ出してくれることを期待する。

《3. 具体的な取り組みの内容》

準備期間を経て、平成27年6月から実際の取り組みを始めた。全ご利用者を対象に、アクティビティの活動内容から大きく7つの小グループをつくった。

1. 手芸・工芸グループ
2. カラオケグループ
3. 園芸グループ
4. テーブルゲームグループ
5. 散歩・リハビリグループ
6. 遊友クラブグループ（TVゲームなど）
7. 自由グループ

各アクティビティグループの中から、来園時にやりたいことを【自己決定】していただく。午前の部は来園時より11:30まで、午後の部は13:30より帰りの送迎時間までとした。11:00から11:30は、全体として体操、発声(季節の歌や口腔体操)をやるが、この参加も【自己決定】していただく。時間の使い方は個人の自由とし、午前と午後で別グループの活動に参加すること等も【自己決定】とした。各グループ3～12人程度で、2名ずつの職員で複数のグループを担当することにし、連絡帳の記入もグループの職員が行うようにした。

《4. 取り組みの結果》

50人規模での集団活動には限界があり、やりたいことや好みも違うため、小グループに分けて活動することで、ご利用者がやりたいことをやり続けることが出来るようになった。そのことで、ご利用者がやりたいことを自分で選ぶこと【自己決定】がご利用者の生きがいや楽しみにつながり、デイサービスに行けばやりたいことが出来る空間へと変わっていった。また、同じ趣味のご利用者が集まることで、ご利用者同士のコミュニケーションも活発になった。グループの中でのご利用者の役割も自然にでき、ご利用者が【役割意識】を持つことで、自分の存在の確からしさを感じてもらうことができた。

また、職員も知らない特技や趣味なども再発見でき、『その人らしさ』を多くの場面で見つけることができた。

《5. 考察、まとめ》

小グループにすることでご利用者と個別にふれあい、今までみえなかった能力に気づくことが多くあった。また、多くのご利用者が【自己決定】することで、意欲的に活動を行うことができるようになった。自宅にいるときからデイサービスに通う目的と楽しみが【役割意識】に発展し、ご利用者の生きがいとなり生活の活性化＝脳の活性化につながり、相乗効果として認知症の予防にも効果が見られると考える。ご利用者のご家族への様子の報告も、細やかな部分まで出来るようになり、更なる信頼関係の構築につながっている。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、ご本人ご家族に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それによる不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

なし

《8. 提案と発信》

自分の事を【自己決定】することで、ご利用者一人一人が主役となる。【役割意識】を持つことで、自分の存在価値を見出す事が、地域社会での役割を担う一人となっている認識へと発展する。年齢や疾病に関係なく、『その人らしく』生活をしていくことがご利用者の本来の望みであることを考えると、居心地のいい空間を整え、生きがいを持って地域で生活できる環境を作り上げていくことが、デイサービスの存在価値ではないだろうか。